映画美学校

脚本コース

第15期初等科（後期）

2025/10/28—2026/4/4

［募集要綱］

映画美学校

映画美学校はアテネ・フランセ文化センターとユーロスペースとの共同プロジェクトとして1997年にスタートし、2000年に特定非営利活動法人（NPO）となりました。映画美学校は、映画制作におけるプロダクション機能を持った映画学校です。これまでに受講生、修了生、講師により160本を越える長・中・短編映画がつくられ、多くの映画作家を輩出してまいりました。映画美学校の脚本コースは、日々映画がつくられている場所でのシナリオ講座です。

講座概要

講師はすべて現役で活躍する脚本家です。

業界の最前線で活躍する講師陣が考えた実践的なカリキュラムで、プロとして活躍するための実力を身につけることが出来ます。

どこにいても受講可能！オンライン講義を実施。

遠方からでも参加できるハイブリット型講義を実施。ご都合に合わせて通学・オンラインをお選び頂けます。そのため、世界中から受講することが可能となりました。

クラス別講義は、火曜・金曜の夜に実施。

脚本コースでは、お忙しい方でも気軽に受講出来るよう、週１回のクラス別講義と、土曜日に月２回程度の共通講義を行います。クラス別講義は生活サイクルに合わせて火曜夜と金曜夜から選べます。

２年間のカリキュラムを半年ごとに受講出来ます。

脚本コースでは、全２年間のカリキュラムを、初等科・高等科それぞれ前期と後期にわけ、半年ごとのタームで受講が出来ます。

初等科では脚本の基礎を実践的に学びます。

初等科前期では、脚本の基礎となる理論を学び、5分および15分で完結するミニドラマを書く技術を習得します。これは、全てのドラマの基本となる型を体得する演習です。また、そのミニドラマを受講生自身の手で撮影する実習も行い、シナリオが実際に映像化される過程を学びます。初等科の後期では、前期で習得した基礎を踏まえ、30分のオリジナルドラマの企画開発を体験します。

高等科はより専門性の高いカリキュラムになっています。

高等科はプロの脚本家になるためのより専門的なカリキュラムで構成されています。前期では60分尺のシナリオ、後期では90分程度のシナリオ執筆を行います。講義内で執筆された優秀作品は「シナリオ集」として刊行。プロで活躍するプロデューサー、映画監督が自由に閲覧出来るようにします（著作権の権利は責任を持って守ります）。

共通講義では脚本家に必要な企画開発力と、シナリオにおける様々なスキルを学びます。

プロの脚本家として自立するためには、スポンサーやプロデューサー、監督からの様々な要求に柔軟に対応できる能力が必要となります。同時に、新たな企画を発信出来る企画開発能力が問われる時代になっています。共通講義では、「企画開発論」の講義の他、シナリオにおける様々なスキルを学んでいきます。
またレギュラー講師の他、最前線で活躍する作り手たちをゲストにお招きし、講義を行います。

今までのゲスト
（一部／敬称略）

奥寺佐渡子『おおかみこどもの雨と雪』

大根仁「地面師たち」『パクマン。』

喜安浩平『桐島、部活やめるってよ』

向井康介『ある男』『愚行録』

脚本の執筆と映像化がリンクした画期的なカリキュラムです。

従来のシナリオ講座は、紙の上での指導に偏りがちでした。しかし、映画美学校の脚本コースでは、紙の上に書いたものがどのように映像化されていくかということを受講生ひとりひとりが学べるカリキュラムになっています。

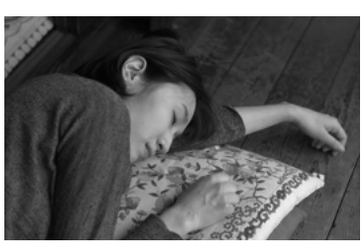
優秀脚本の映像化プロジェクト！

今までに3作品が制作、劇場公開されています。
『**ただいま、ジャクリーン**』（監督：大九明子／脚本：村越繁／2013）
『**イヌミチ**』（監督：万田邦敏／脚本：伊藤理絵／2013）
『**坂本君は見た目だけが真面目**』（監督：大工原正樹／脚本：鳥井雅子／2014）

第1期初等科作品
『ただいま、ジャクリーン』

修了生はプロで活躍中です。

鈴木洋介：映画『窓ぎわのトットちゃん』（第1期修了生）
平谷悦郎：映画『うみべの女の子』（第1期修了生）
村越繁：テレビアニメ「ゾンビランドサガ（シリーズ構成）」
「NINJA KAMUI（シリーズ構成）」（第1期修了生）
安永豊：テレビアニメ「バビロン」「僕だけがいない街」（第1期修了生）
山田哲弥：テレビアニメ「大雪海のカイナ」（第1期修了生）
吉田香織：映画『殺人鬼を飼う女』（第2期修了生）
草場尚也：映画『雪子 a.k.a.』（監督・脚本・編集／第4期修了生）
下田悠子：ドラマ「捨ててよ、安達さん。」（第4期修了生）
弥重早希子：ドラマ「3000万」（第6期修了生）　他


2012年度高等科
コラボレーション作品
『イヌミチ』

第2期初等科作品
『坂本君は
見た目だけが真面目』

高等科後期修了生を対象に「プロット・コンペティション」を開催

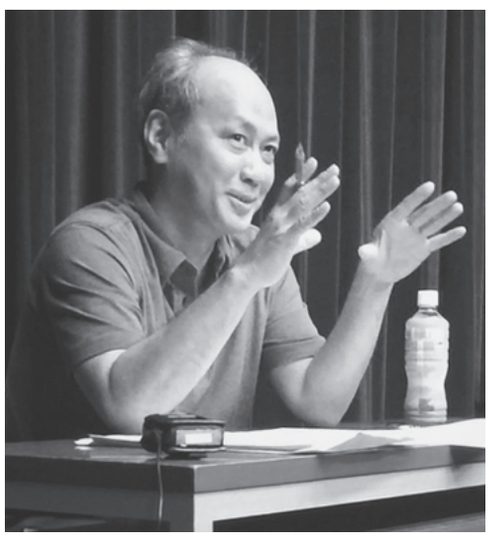
プロで活躍するプロデューサーに自身の企画をプレゼンする「プロット・コンペティション」を毎年開催。
毎年最大3作品が最優秀作品に選ばれ、それぞれ映像化に向けて動いています。

2016年プロット・コンペティション最優秀作品『ばぁちゃんロード』上村奈帆（第4期修了生）
DVD発売＆絶賛レンタル中！

主任講師メッセージ

新しいエンターテインメントを目指す「現場」がここにある！

高橋洋（脚本家・映画監督）



映画には必ず主人公がいる。

映画に限らない、物語を扱うすべてのメディアにこれは当てはまる。
主人公はたいがい、何か克服せねばならない「問題」を抱えている。
僕たちの日常生活だってそうだ。みんな何かしら問題を抱えている。
でも、他人が抱える問題に誰も興味を持とうとはしない。自分のことで精一杯だ。
ところが不思議なことに、映画を見始めると、赤の他人の主人公が抱える「問題」がまるで我がことのように感じられる。
そして「問題」がついに克服される瞬間を見届けたいと思う。
これがエンターテインメントの骨法なのである。

この学校はみなさんと一緒に新しい時代のエンターテインメントを開発することを目指している。
魅力的な「問題」を発見して欲しい。
そしてそれをいかに観客に届けるか、講師たちと探求する「映画作りの現場」を体験して欲しい。

高橋洋　TAKAHASHI Hiroshi

1959年生まれ。早大シネマ研究会で『夜は千の眼を持つ』など8ミリ作品を発表。90年に森崎東監督のテレビ作品『離婚・恐婚・連婚』で脚本家デビュー。主な脚本作品に、中田秀夫監督『女優霊』(95)『リング』(98)『リング2』(99)、北川篤也監督『インフェルノ蹂躙』(97)、黒沢清監督『復讐 運命の訪問者』(96)『蛇の道』(98)『予兆 侵略する散歩者』(17)、佐々木浩久監督『発狂する唇』(99)『血を吸う宇宙』(01)、鶴田法男監督『リング0バースデイ』(00)『おろち』(08)、三宅唱監督『Netflixオリジナルシリーズ　呪怨：呪いの家』(20)がある。近年は『恐怖』(10)『旧支配者のキャロル』(11)『霊的ボリシェヴィキ』(17)『ザ・ミソジニー』(22)など監督作が続く。フィクション・コース生とのコラボ作品『うそつきジャンヌ・ダルク』(21)『同志アナスタシア』(22)『女の決闘』(23)『白昼鬼語』(24)『アンティゴネイタス』(25)がオンライン公開中。著書に「映画の魔」(青土社)、稲生平太郎との共著「映画の生体解剖」(洋泉社)、脚本集「地獄は実在する」(幻戯書房)がある。

共通講義

土曜日に行われる共通講義（全10回）は、初等科、高等科共通の講義となります。

「シナリオ指導実践編　ホン読みを通した実践的技術論」（高橋洋）

初等科前期で開発された15分のシナリオをテキストに、アクターズ・コース有志を招き「ホン読み」を行います。「ホン読み」とは、自分の書いた台詞・ト書きが他人の声で読み上げられる、それにジッと耳を傾けて映画の流れをチェックしてゆく、いわば「音」によるプレビューです。ホン読み後、少人数のグループに分かれて、ホン読みから見えたリライトのポイントについて話し合い、発表して貰います。発表を受け、講師である僕からは「もし自分が演出するとしたら」という観点も含めた議論を展開し、具体的なケースに則した実践的な技術を磨きます。ここで培った経験をクラス講義での30分のシナリオ開発に生かしてゆくのが目的です。高等科生および後期から参加した受講生には、企画をプレゼンして貰い、上記と同様の議論を行います。また、学外からゲストを招いての講義を行います。

火曜夜クラス担当講師メッセージ

冨永昌敬（映画監督）

私たちの社会は役割であふれています。教師の役割は教育、お風呂のそれは入浴、ラーメンなら食料…といった意味ですが、あなたが知っている映画の内部にもさまざまの「役割」が存在しています。

マフィアの一家を描いた『ゴッドファーザー』には、武闘派の兄と優等生の弟が登場します。この映画は原作小説のとおり「マフィアらしくない」弟を主人公にすることで、3時間の重く切ない人間ドラマになりました。
しかし仮に、マフィアという「役割」に一番ふさわしい兄を主人公にしていたら、たぶん1時間半の痛快なアクション映画になったはず。ここに作用しているのが「役割」への意思なのです。

役割とは、それを徹底するか、逸脱するかの二択しかありません。「らしい」と「らしくない」です。同時に、映画の登場人物には人格というものが本来そなわっていますが、社会や人間関係のなかではいろいろな役割が人格を抑圧します。この講座では役割と人格のせめぎ合いを主軸として、あなたが考える物語や場面を、映画のシナリオとして形づけることを目指しています。

冨永昌敬　TOMINAGA Masanori

1975年愛媛県生まれ。99年日本大学芸術学部映画学科卒業。近年の主な脚本・監督作品は『南瓜とマヨネーズ』（17）、『素敵なダイナマイトスキャンダル』（18）、『白鍵と黒鍵の間に』（23）など。『ひとりキャンプで食って寝る』（19/TX）、『ニーハムの旅』（20/愛媛朝日放送）、『僕の手を売ります』（23/FOD）等ドラマの演出も手掛けている。最新監督作は『ぶぶ漬けどうどす』（脚本：アサダアツシ）。

［脚本コース初等科　火曜夜（冨永）クラスの受講必要条件］
・提出原稿はWordファイル使用可能なワープロソフトを使用のこと。手書き不可
・インターネット環境があること。メールとクラウドを使います。

火曜夜クラス（冨永昌敬クラス）カリキュラムについて

毎週火曜　19:00～21:30　／　共通講義　13:00～16:30

回数	日付	講義	
1	10/28	初等科前期のおさらい	30分シナリオに向けて
2	11/4	テーマとストーリー（1）	プロットを形づくる両軸について
3	11/11	テーマとストーリー（2）	どんな登場人物が生まれるのか
4	11/18	役割とキャラクター（1）	人物を動かす二つの概念について
5	11/25	役割とキャラクター（2）	さまざまな対立を見つける
6	12/2	30分の映画を見る	参考作品の鑑賞と解説
	12/6（土）	※共通講義1	
7	12/9	誇張と省略について	映画の作者は現実を誇張する
	12/13（土）	※共通講義2	
8	12/16	誇張と省略について	省略はテクニックであること
9	12/23	30分課題プロット作成	
10	1/6	30分課題プロット提出	
	1/10（土）	※共通講義3	
11	1/13	ゼロ稿を書く・指導	まず柱を立てずに書いてみる
	1/17（土）	※共通講義4	
12	1/20	ゼロ稿を書く・指導	
13	1/27	初稿を書く・指導	柱を立てる
14	2/3	初稿を書く・指導	
15	2/10	2稿を書く・指導	改稿する
	2/14（土）	※共通講義5	
16	2/17	2稿を書く・指導	
	2/21（土）	※共通講義6	
17	2/24	決定稿を書く・指導	改稿する
	2/28（土）	※共通講義7	
18	3/3	決定稿を書く・指導	
	3/7（土）	※共通講義8	
19	3/10	決定稿を書く・指導	
	3/14（土）	冨永クラス30分課題締め切り（講義なし・メールでの提出）	
20	3/17	まとめ	
	3/21（土）	※共通講義9	
	4/4（土）	※共通講義10・30分課題講評会	

※12/30は講義無し
※「共通講義10・30分課題講評会」は、両クラス担当講師及び高橋洋主任講師の3名による優秀シナリオの選考・講評会を予定しております。

金曜夜クラス担当講師メッセージ

宇治田隆史（脚本家）

世の中には小説にしろマンガにしろ色んな物語があります。
好きな作品や作家、ジャンルなどそれぞれに好みがあるでしょう。

ところが自分が何にどう反応しているか意外とわからないものです。

起こった出来事や目についたスタイルに感動したように思いますが、
その感動を再現してみようとシナリオ（自主映画）の中で真似てもまったく
上手くいかなかったり。
心が動かないというか。

面白かった、カッコよかった、感動した、はどうやって生まれるのでしょう。

いったいどうやって作られるのか。なんだか途方もない気もします。

でも確かにあるのです。
それを見にいってみませんか。

宇治田隆史　UJITA Takashi

1975年生まれ、和歌山県出身。大阪芸術大学大学院在学中に手掛けた、『悲しくなるほど不実な夜空に』（02/兼監督）が第18回トリノ国際映画祭、TOKYOFILMeX2000コンペティション部門へ出品される。『アンテナ』『青春☆金属バット』『フリージア』『ノン子36歳（家事手伝い）』など、大学の同期であった熊切和嘉監督作品の脚本を担当し活躍。その他の主な作品に元木隆史監督『転生』（05）、亀井亨監督『病葉流れて』（07）、野伏翔監督『初恋 夏の記憶』（08）、TVアニメ「ミチコとハッチン」（08-09/CX）など。熊切和嘉監督『海炭市叙景』（10）では第23回東京国際映画祭コンペティション出品、第12回シネマリナ国際映画祭グランプリ、第13回ドーヴィルアジア映画祭審査員賞を獲得。さらに熊切和嘉監督『私の男』（14）では、第36回モスクワ国際映画祭で最優秀作品賞、第69回毎日映画コンクール日本映画大賞を獲得。脚本最新作である黒沢清『岸辺の旅』（16）では第68回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門にて監督賞を受賞した。

［脚本コース初等科　金曜夜（宇治田）クラスの受講必要条件］
・提出原稿はWordファイル使用可能なワープロを使用のこと。手書き不可。
・インターネット環境があること。メールを使います。

金曜夜クラス（宇治田隆史クラス）カリキュラムについて

毎週金曜　19：00～21：30　／　共通講義　13:00～16:30

回数	日付	講義	
1	10/31	動きを形作る①	人物の目的は欲求から　ストーリーの目的は進行
2	11/7	感情とは何か①	作者と題材の間に生まれるもの ～感触を知る～
3	11/14	感情とは何か②	人物と人物の間に生まれるもの ～関係性のはたらき～
4	11/21	動きを形作る②	葛藤と変化 ～感触の再現伝達を試みる～
5	11/28	動きを形作る③	展開 ～状況を広げる方法を知っていく～
6	12/5	感情とは何か③	心の動きを捉える ～積み重なる感情～
	12/6（土）	※共通講義1	
7	12/12	描写してみよう	【再度】人物の目的は欲求から、ストーリーの目的は進行
	12/13（土）	※共通講義2	
8	12/19	新しくプロットを作ってみよう①	講評
9	12/26	新しくプロットを作ってみよう②	講評
10	1/9	新しくプロットを作ってみよう③	講評
	1/10（土）	※共通講義3	
11	1/16	初稿①	講評
	1/17（土）	※共通講義4	
12	1/23	初稿②	講評
13	1/30	初稿③	講評
14	2/6	ポイントとアドバイス①	改稿
15	2/13	ポイントとアドバイス②	改稿
	2/14（土）	※共通講義5	
16	2/20	ポイントとアドバイス③	改稿
	2/21（土）	※共通講義6	
17	2/27	ポイントとアドバイス④	決定稿に向けて
	2/28（土）	※共通講義7	
18	3/6	ポイントとアドバイス⑤	決定稿に向けて
	3/7（土）	※共通講義8	
19	3/13	ポイントとアドバイス⑥	最終調整
	3/17（火）	宇治田クラス30分課題締め切り（講義なし・メール提出）	
20	3/20（祝）	課題を終えて	書き手への講評
	3/21（土）	※共通講義9	
	4/4（土）	※共通講義10・30分課題講評会	

※1/2は講義無し
※「共通講義10・30分課題講評会」は、両クラス担当講師及び高橋洋主任講師の3名による優秀シナリオの選考・講評会を予定しております。

脚本コース
第15期初等科（後期）
募集要項

▌受講期間：火曜夜クラス：2025年10月28日（火）から2026年4月4日（土）
金曜夜クラス：2025年10月31日（金）から2026年4月4日（土）

▌受講資格：18才以上（学歴、経験の有無は問いません）
＜オンライン講義での受講条件＞
※WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。
※DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することがあります。

▌募集人員：火曜夜クラス36名／金曜夜クラス36名（最低開講人数：各クラス19名）

▌講義日程：火曜夜クラス19:00～21:30、金曜夜クラス19:00～21:30、共通講義を土曜日13:00～16:30に行います。
※講師の都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。
※期の途中でのクラス変更は出来ませんのでご注意ください。

▌講義回数・受講料：全30回／ 135,000円（保険料込／税込）※分割でのお支払いもございます。

▌入学登録料：10,000円（税込）※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
67,500円を前払い（映画美学校を初めて受講される方は77,500円）　残額67,500円が分割払いになります

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	135,000	67,500	67,500	2,835	70,335	14,067

（単位：円／税込）

▌教室：ハイブリット（通学・オンラインをお選びいただけます）
通学の方：映画美学校（渋谷）　渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F

申し込みはこちら

▌受付期間：2025年10月17日（金）20:00まで
（尚、締切日以前に定員に達した場合は申込受付を締め切らせて頂きます）

▌申込方法：オンラインによる申込
映画美学校ホームページよりお申し込みください。簡単な選考のうえ、合格者には、合格通知と受講手続きのご案内を、申込受理から一週間以内にメールまたは郵送いたします。

▌受講手続：合格通知を受領後、受講料、登録料の合計金額145,000円（消費税込）を指定の期日までに、指定の銀行口座にお振込下さい。入金が確認された時点で申込み受付完了となります。
※一旦納入された受講料等は原則として返金できません。

映画美学校約款

受講上のご注意

◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

受講取消の扱い

◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%
29日前～14日前まで：全額の75%
13日前～7日前まで：全額の50%
6日前～1日前：全額の25%
なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

安全面について

◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

著作権について

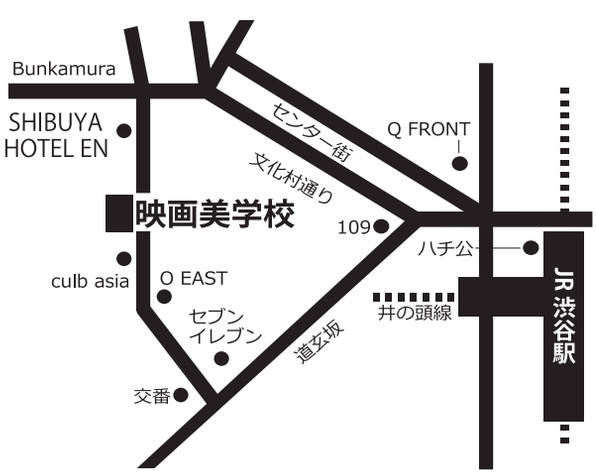
◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、講義風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
（渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折）

TEL 03-5459-1850　FAX 03-3464-5507

http://www.eigabigakkou.com

受付時間（月～土）12:00～20:00